

海田南小学校 授業紹介 コーナー

(ここでは、海田南小学校の様々な先生達の授業の様子を随時紹介しています。)

4月 19日	第1学年1組	国語科	授業者(坂本 由香 教諭)
NO.1	参観者(校長・主幹・西村・今井・津田)		記入者 (校長 重森)

【1】 授業の概要

音読体操 「あいうえおのうた」から始まり、新出の教材「あめですよ(詩)」に入る。「みなさんは雨といえばどんな気持ちになる？」という発問から、「雨がきらい」「雨がすき」という思いの理由を語らせ、それを赤と青の色のイメージで視覚化する。いよいよ教材の提示の時、「先生は絵の順番は覚えているんだけど、文の順番を忘れてしまったので、みんなで考えて欲しい」とあえて、「文」と「挿絵」をばらばらに提示し挿絵を使って、「雨がすき」「雨がきらい」な根拠を子供に語らせながら、詩を完成させる。35分間は「読むこと」の授業をし、のこり10分間で、「ひらがな」を書く授業を行う。入学してまだ10日の1年生を45分間集中させる、おみごとな授業でした。

【2】 授業の素晴らしい点と学び

①導入期のしつけをしつつ学力をつける授業

「今の声の大きさは3だから花丸！でも、一つおしかつたね。なんでしょう？」と先生が尋ねると「返事？」と子供達。「返事を頑張らなきゃ」と自己認識した子供達はそこから後は、ちゃんと自分で意識して「はい！」の返事ができていました。また「聴き方名人は〇〇さん！」「人の多い方に向かって発表できたね。」「えらいね、言わなくても自分から指なぞりをしている人がいます。」のように、坂本先生は、『返事』『めあてこ』『発表の声の大きさ』『発表する時の向き』『発表への反応』などの入門期に必要な学習規律を、全く叱ることなく、逆にできているところを『ほめながら』奮起させる技をくりひろげておられました。1年生で育てた「学習規律」を、みなさん、崩さない様に育ててくださいね。

②こどもが「はっ」とするしかけのある授業

「さあ、みなさん、今日は、この詩です。では読んでみましょう。」となりがちな導入を、今日は、子供達が読みたくなるような、思わず考えたくなるような仕掛けがされた提示でした。参観した私たちも、みんな身を乗り出して、考えました。子供が「思わず考えてしまう」ようなまた、「考える必然性」をもつような授業では、子供の「集中力」が違います。「先生！！もう終わるんですか？まだやりたーい」と言わせる授業になればしめたもんですね。

③常に脳みそをフル回転させてこどもが考えている無駄のない授業

坂本先生は子供の発言をよく聴いておられます。さらに、その発表を聴いている側の子供達の理解度も把握されながら、深める発音や補助発問をされます。「くまはこわがっています」という子供の発表について「どんなところからそう思った？」と問われ、さらには「絵を見て、こわがっているんじゃないかと分かるところはどこ？」といいなおされ、「前に出てきて教えてください」と全員の児童の理解に広げられます。その間、常に、周りの子供達も、ぼやぼやせず、考えている(考える自立)をしている空気が感じられます。また、ひらがなの「う」を習う学習では、①「う」の着く言葉を列でどンドン言う②「う」の書き方の気づきを「(一角目)は斜めです」のように、子供が発表する。これらの学習の方法は、JAKの学び(自分で一旦考えたことは、何も考えずに教えられた学習よりも定着する)です。



口をしっかりあけて、立って音読！



文字を少しずつ見せてクイズ形式



言いたい！発表したい気持ちの表れた挙手



「前に出ます！」指棒で気づきを発表する



『う』のつく言葉を、前から順番に間髪いれず、どんどん言っていきます。何を言うか立っている間に考えて